



ひいくんといると
いつも“笑顔”が
ついてくる



▲上映会後、スタッフや
地元の仲間たちと

つながり
人と人との絆は 変わらない。



▲上映会会場の様子 (4/29 市川大門町民会館 講堂)

ひいくんの あるく町

市川三郷町を舞台に、渡井秀彦さん(ひいくん)を追ったドキュメンタリー映画「ひいくんのあるく町」。監督の青柳拓さんへの取材をもとに紹介します。



Story

いつも町を歩き回っている“彼”は、町のみんなから“ひいくん”と呼ばれ、いつも誰かの手伝いをしてる。ひいくんが歩く町は日々変化している。若者の姿は減り、シャッターが目立つ。市川大門にある「水口屋」の店主・青柳正輝さんは病に倒れ、趣味の写真を撮ることも難しくなった。正輝さんが撮影した写真には、日々の暮らしが写されている。ひいくんは歩くことで人の記憶に残り、正輝さんは写真に記憶を残す。緩やかに、でも確実に変化していく町。その町を、ひいくんは今日も歩く。

町は変わろうとも…。

撮影のきっかけ…そこから見たもの…今後…

― 故郷を見つめ直す

映画の企画段階で、私の出身地市川大門を撮影したいと思っていました。僕自身、故郷を離れ東京に出て「退屈・寂しい」とつい口にしてしまつ、生まれ育った故郷を安易に切り離してしまつたことに対し、これで良いのか、それこそ寂しくないか、と思いはじめ、自分自身の目で故郷いちかわみさとを確かめたいと思っていました。

そんな時、福祉施設で働いている父との会話で、ひいくんが働いていることを知り、いつも彼が町のみんなと笑顔で話し、歩くポジティブさに興味と疑問が湧きました。ひいくんは衰退や寂しさ、対極な存在なのではないか？と感じ、彼を追ひ、故郷の変化と現実をカメラを通して見つめ直すことを決意しました。

― 変わらないもの

この作品では「障がい」という言葉をほとんど使っていません。この町は、すべての人を受け入れ、差別も偏見もなく自立や社会参加を促すことを皆が当たり前にしています。ひいくんを見守り、笑顔で会話する。町は変わっても人は変わらない、寂しさなんてない、あたたかい故郷でした。

― 多くの人に感謝

この作品は、僕一人の力では完成しなかったのと言つてもなく、協力してくださったひいくんはじめ、町の皆さま、スタッフ、家族、たくさんの人に感謝しています。ひいくんとは今でも電話をしたり、温泉やご飯に行き、仲良くさせてもらっています。今後は、この映画を全国へ広げ、ぼく自身も映画制作に携わり、身近にある「心」、当たり前すぎて気づかなかつた「光」を見つめ直すような作品を作りたいです。

声

映画会アンケートより 観賞した皆さんの

- 町内での上映会には県内外から多くの方に来場していただきました。その方々のコメントを一部紹介します。
- 変わっていつてしまつものの中に、変わらないものがある。とてもステキな映画でした。(20代女性)
- 障がいのある人、ない人が一緒になつて地域で生活してられる、そんな社会でなければいけないと思う。(50代女性)
- 生きていく上で一番大切なものがここにありました。(60代女性)
- ひいくんを通じて、どうすれば光を取り戻せるか考えさせられました。ひいくんとゆつくり歩いたら、何かが見つかるかも。(70代女性)
- ひいくんのような人々が、幸せに暮らせる町がたくさん再生できたら、みんな幸せになる！(60代女性)

取材の最後に、青柳監督に聞いた 撮影での苦労話…。

ひいくんは「探してない」と現れ、「探す」となかなか見つからないんです。ひいくんはカメラや機材が好きで、気付くと撮影側にきてしまい撮影が中断しました。



渡井秀彦さん
(ひいくん)

青柳 拓監督

監督：青柳拓(市川三郷町)
 主人公・題字：渡井秀彦(ひいくん)
 製作：日本映画大学
 撮影：山野日光政
 録音/プロデューサー：植田朱里
 副プロデューサー：熊澤海透
 録音：福田陽
 編集：朝野未沙稀
 撮影期間：半年(H28.3月~9月)
 撮影時間：50時間
 撮影スタッフ：6人
 撮影場所：市川三郷町

■これまでの上映・実績
 H29年2月11日、12日
 日本映画大学卒業制作上映会
 川崎市イオンシネマ新百合ヶ丘
 前売券の段階で2日間ともに完売
 延べ1,500人以上の来場者で満員御礼
 H29年4月29日
 地域連携映画上映会
 市川大門町民会館講堂
 2回上映、立ち見・入場制限を行うも
 延べ1,000人以上の来場者で満員御礼
 第8回 座・高円寺ドキュメンタリー
 フェスティバル入賞

■今後の予定
 H29年9月2日~
 ポレポレ東中野(東京都)
 チケットは下記まで問い合わせ下さい。
 岡水口屋フィルム
 ☎080-9272-3166(青柳)
 E-mail:oyogisyurup@gmail.com
 ○今夏より全国で順次公開予定
 ○町のイベントでも上映予定
 最新情報はこちら!!
<https://www.facebook.com/hikunnoarukumati/>



75歳以上の方全員が加入している 後期高齢者医療制度に 関するお知らせです

後期高齢者医療制度に加入の皆さま

新しい保険証を7月中旬に

お送りします

(現在お持ちの保険証は

7月31日が有効期限です)

後期高齢者医療制度(75歳以上全員と所定障害の65歳以上含む)に加入している方がお持ちの保険証は、7月31日が有効期限となつているため、今月中に新しい保険証をお送りします。

郵送の方法は、皆さんやご家族に、直接手渡す書留郵便です。

受け取つたら、自分のもの間違いのないかよく確認し、お手元に届いた日から必要に応じてお使い下さい。

古い保険証は、8月以降使えません。大切な個人情報に記載されていますので、各自で細かく裁断するなどして確実に破棄して下さい。

限度額適用標準負担額減額認定証が
8月1日より更新されます

こちらの認定証の色は変更ありませんが、有効期限が平成30年7月31日までのものとなり、被保険者証とは別に交付します。

前年度交付を受けている方で今年度も適用要件に該当する場合は、引き続き交付します。手続きは不要です。

保険料の決め方 平成29年度の後期高齢者医療保険料は次の計算で決まり、7月中にお知らせします。

■保険料 = 均等割額 + 所得割額
(40,490円) (所得 - 33万円) × 7.86%

※保険料の額には、世帯の所得水準などに合わせた軽減措置があります。
※保険料賦課限度額 57万円

保険料の軽減率が変更されます

被保険者個人の所得が軽減対象の基準を満たすことで受けられる所得割額の軽減率が5割から2割に、資格取得日前日に社会保険などの健康保険の被扶養者だった人が受けている軽減率が9割から7割に変更されます。

町町民課国保年金係
☎ 055-272-1105

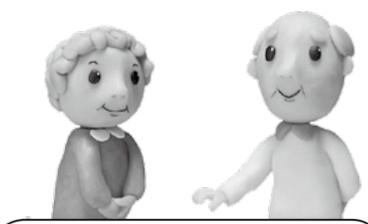
加入者の皆さんに保険料決定通知書をお送りします

(今年度の後期高齢者医療保険料額が決定しました)

後期高齢者医療制度に加入している方に納めていただく、今年度の保険料額が決定しました。

加入者の保険料額については、昨年中の所得が確定するこの時期に決定し、保険料決定通知書などをお送りいたします。

金融機関窓口や口座振替で保険料を納めていただける方は、各納期限内に納めていただくようご協力下さい。



保険料の納め方は4種類あります。通知書の保険料が記載されている欄や、納付書の有無で徴収方法が分かります。

納入通知書から見る 保険料の納め方のパターン

- 納入通知書の特別徴収欄①のみに保険料額が記載され、納付書が同封されている
↓年金から天引きされます
- 納入通知書の普通徴収欄②のみに保険料額が記載され、納付書は入っていない
↓口座振替です
- 納入通知書の特別徴収欄①、普通徴収②の両方の欄に保険料額が記載され、納付書が同封されている
↓年金から天引きされる保険料と、窓口納付する保険料があります

■ 納入通知書の期別保険料額が記載されている部分
期別保険料額

月	特別徴収(円)	期別	普通徴収(円)	普通徴収の場合の納期限
4月	①		②	
5月				

高齢者の健康維持につながる

わが家のレシピ大募集

- 応募内容 高齢者の健康維持につながる、ご家庭での伝統料理やオリジナル料理のレシピ
- 応募資格 山梨県後期高齢者医療制度の被保険者の方、もしくは山梨県後期高齢者医療制度の被保険者の方と同一世帯の方
- 応募期間 7月3日(日)～8月31日(日) 必着
- 応募方法 町役場本庁舎町民課窓口、各支所住民サービス係窓口にある専用の応募用紙に必要事項を記入の上、応募作品の写真(1人前)を添付して郵送で〒400-8587 甲府市蓬沢一丁目15番35号 山梨県自治会館2階 山梨県後期高齢者医療広域連合 まで
- 表彰内容 2点(最優秀賞1名:1万円相当賞品、優秀賞1名:5千円相当賞品)
- その他 入賞したレシピはカードにして県内で配布します

山梨県後期高齢者医療広域連合 ☎ 055-236-5671

